

## 2020 年度第 1 回価格審査会の開催について

2020 年度第 1 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2020 年 4 月 13 日(月) ～17 日(金)	
場 所	新型コロナウイルスに関わる緊急事態宣言を考慮して上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	桜井 力	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2019 年度第 12 価格審査会議事録(案) 確認

2020 年度第 1 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	「建設物価」5月号、「Web 建設物価」5月号の価格動向
・	<p>価格が上伸した資材（工事費）</p> <p>【建設物価】レディーミクストコンクリート（広尾、町田、相模原A・B、平塚、藤沢、厚木、串本）、再生砕石（新城、米子、名護A・B、国頭A・B、東村）、コンクリート用骨材（土浦、取手、館山、木更津、茂原、東金、勝浦、東京）、ガス（東京）、移動式クレーン作業料金（近畿）などであることを説明。</p>
・	<p>価格が下落した資材（工事費）</p> <p>【建設物価】異形棒鋼（全都市）、H形鋼（全都市）、鋼板（九州を除く各都市）、コンクリート型枠用合板（北海道、関東、北陸、近畿、四国の各都市）、ストレートアスファルト（全都市）、電線（全地区）、燃料油（全都市）、鉄スクラップ【鉄】（全都市）、非鉄スクラップ【銅】（全都市）などであることを説明。</p>
2.	比較資料
・	企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	生コン市場各地区の協組の値上げ理由として、原材料と輸送コスト上昇をあげている。原材料の主な構成は「セメント」と「骨材」、輸送コストの主な構成は「燃料費」と「人件費」と考えると、「セメント代」は大きな変動はなく、「燃料費」の現状は下げ傾向なので、コスト上昇の主たる構成要素は「骨材料費」と「輸送人件費」と考えてよいか。	協組の値上げ理由であるコスト上昇のうち、原材料コストは、セメントおよび骨材調達コストであり、輸送コストは、輸送に係る人件費のことを指している。セメントおよび骨材価格は、全国的に上昇している。また、輸送に係る人件費も、ここ数年の運転手不足の影響などで、全国的に上昇傾向にある。
審議 2	10 都市価格推移グラフの各コメントは、「東京地区」「関東地区」としてのコメントとなっている。地場資材ではない、異形棒鋼、H形鋼、コンクリート型枠用合板、600V ビニル絶縁電線、燃料油について、グラフの傾向が東京と同様な都市については、コメントの内容は、同様と考えてよいか。	異形棒鋼、H形鋼、コンクリート型枠用合板、600V ビニル絶縁電線、燃料油については、東京地区の市況コメントの状況が当てはまる。
審議 3	機械式継手メーカーの値上げ理由は何か。	メーカーの値上げ理由は、人件費上昇による製造コスト増である。北陸新幹線工事などによる需要増を背景に値上げ交渉を進め、浸透した。
審議 4	アスファルト混合物メーカーの値上げ理由は何か。	メーカーの値上げ理由は、人件費上昇による製造コスト増である。人手不足や働き方改革などを背景に、過去から採算性が低かった夜間単価について値上げ交渉を進め、浸透した。
審議 5	ケーブルラックメーカーの価格体系変更（値下げ）の理由は何か。	一部の規格で製品の仕様が変更され値下げとなったためである。
審議 6	光電式自動点滅器メーカーの生産中止に伴い、他メーカーの価格体系が浸透した結果として、上伸と下落が混在する理由は何か。	各社、製造コストと営業方針の違いから価格体系が異なるなかで、大手メーカーは生産を中止し、製造を継続する他メーカーでは価格改定が行われた。その結果、大半の規格は上伸したが、一部の規格では下落となった。
審議 7	レディーミクストコンクリート（東京17区）の駆け込み注文は、何カ月先の分までが可能となっているのか。	協組は、今回の駆け込み注文に対して、6月末までに納入が開始された場合に値上げ前の価格を適用している。
審議 8	2016年10月号以来41カ月ぶりに2カ月連続で、下落帯数が上伸帯数を上回ったとあるが、今後、新型コロナウイルス感染症が終息しない限り、下落帯数が上回る傾向が続くと見てよいか。	国内の建設投資や海外からの輸入品価格の動向など先行き不透明感が強く、今後もこの傾向が続くかどうかは不明である。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 9	異形棒鋼及びH形鋼の下落理由としては、需要低迷及び新型コロナウイルス問題が列挙されているが、原油相場の値下がり、鉄スクラップ、非鉄スクラップ等の下落も影響していると考えてよいか。	鉄スクラップ価格の下落は、異形棒鋼およびH形鋼価格の下落が影響しているが、原油相場および非鉄スクラップ価格の下落は、影響していない。
審議 10	東京地区の軽油は、リットル当たり 94 円から 76 円と 18 円下落している。他地域でも過去 2 年半では最大の下落率となっているが、これほどの大幅な下落は、最近では何年何月以来か。	直近 1 年間では、これほどの大幅な下落は見られないが、2008 年 12 月号でリーマンショックの影響を受け、22 円下落した。この時は、2008 年 9 月号の 149 円をピークに、2009 年 4 月号では、77 円まで下落している。また、新興国や欧州の需要低迷、シェールオイルの増産などにより世界的に需給が緩和し、2014 年 8 月号の 122.5 円をピークに 2015 年 3 月号では 84.5 円まで下落している。
審議 11	「新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要減少が影響し、下落した資材もみられた。」との記述があるが、主な資材は何か。	鉄鋼類、スクラップ類、コンクリート型枠用合板などである。
審議 12	コンクリート型枠用合板について、「新型コロナウイルスの影響で原産国の工場稼働率が低下するなど、今後の輸入量に不透明感もある」とあるが、他に新型コロナウイルスの影響で供給量に減少が見込まれる資材及び価格に影響を与えそうな資材はあるか。	需給がひっ迫して調達が困難な資材は見受けられない。しかし、一部の住宅設備資材で納期遅れがみられる。また、中国からの輸入依存度が高い資材として融雪剤、土のう、ブルーシート、肥料、石材（御影石）、シナ合板、畳表、建築金物などが挙げられるが、国内在庫が十分にあるため市場への供給量に影響は少ないとみられる。価格動向への影響が予想される資材としては、鉄鋼類、スクラップ類、電線、燃料油などが挙げられる。
審議結果	「建設物価」5月号、「Web 建設物価」5月号の価格動向に問題はなかった。	

以上